



【日本プロテオーム学会通信 No. 24】

2009. 12. 16

【日本プロテオーム学会通信】は、日本プロテオーム学会会員の皆様に配信しています。

No. 24 は【JHUP0 通信】からの通し番号です。

【研究室便り-11】 聖マリアンナ医科大学 加藤研究室

今回は、聖マリアンナ医科大学 大学院疾患プロテオーム・分子病態治療学教授の《加藤智啓》先生にご自身の研究室のご紹介をお願いしました。

皆様、こんにちは。私どもの研究室では、その名の通り、プロテオミクスを中心に疾患解析を行っています。聖マリアンナ医科大学は単科大学で、総合大学にあるような大規模研究施設はありませんが、基礎系と臨床系の教室がよく協力して研究を進めています。また、医科大学であるという特徴を生かすために、臨床検体解析を中心に研究を進めています。すなわち、研究室は PhD 教員と医師教員とが混在し、大学院生はほとんど医師です。医師教員は診療科と連携して、臨床検体研究の生命倫理委員会申請から検体採取と解析まで広く関わり、また、PhD 教員は専門的知識と技術をもって検体解析に関わっています。現在は医師教員にリウマチ・膠原病専門医が多いために、主な対象疾患はリウマチ性疾患ですが、加えて、多くの診療科の大学院生医師から、自身の専門とする疾患をプロテオミクスで解析したいとの要望があり、計画の立案から技術的支援まで、広くそれに応えています。そのために、研究室はいつも十数人の研究者で賑わっています。プロテオミクス手技としては、2D-DIGE や 2D-ウエスタンプロット、MALDI-TOF/TOF や ETD 解析のできる LC-MS が稼動しています。現在は、臨床検体の翻訳後修飾スクリーニングシステムの確立に注力しています。臨床検体解析から診断マーカーや治療標的を確立し、臨床現場に還元することを目標に努力しています。臨床プロテオミクスにご興味のある方は、是非ご連絡ください。

(加藤智啓)

お願い： 会員の皆様の研究室をご紹介下さい。

400～800 字の原稿を平野 (hirano@yokohama-cu.ac.jp)宛お送り下さい。

【日本プロテオーム学会通信】に対するご意見をメールにてお寄せ下さい
(宛先は hirano@yokohama-cu.ac.jp)。ご意見を【日本プロテオーム学会通信】
に掲載希望の場合はその旨お知らせ下さい。

【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問合せ】は、日本プロテオーム学会事
務局(cljhupo@secretariat.ne.jp)にお願いいたします。